

東山道駅路

現在の国道と同じように、東西方向にのびています。

まっすぐにのびる道路の幅はおよそ10mで、両端には幅約70cmのみぞが掘られています。この道路は、8世紀前半の建物に壊されていることから、それ以前につくられたことがわかります。

道の規模やみぞの形など、県内でこれまでに発見されている駅路(※2)と共通する点が多いことから、7世紀に整備された東山道駅路の可能性が高いと思われます。

今後、道路の整備・開通時期や、8世紀以降はどこに移されたのが課題となります。



大型掘立柱建物(公的施設①)

はりゆき 3間(約7.5m)、けたゆき 9間(約27m)で(※3)、1m四方の柱穴が掘られており、かなり大きな柱が建てられていたことがわかります。また、建物の内側にも小さな柱穴が複数見つかったことから、内部を仕切る柱が別にあったと考えられます。

本建物と、南側の総柱建物は主軸(=方向)が大体同じであることから、同じ時期に機能していた建物と考えられます。

また、建物の一部は駅路の内側まで及んでおり、この区間の道路が廃止された後に建てられたことがわかります。

総柱建物(公的施設②)

大型掘立柱建物の南にある総柱建物(※4)からは、地業と呼ばれる基礎が見つかりました。基礎は長方形に地面を掘り、石と土が中に詰められ、版築工法で固く叩きしめられていました。もともとは、基礎の上に礎石があったと思われますが、確認できませんでした。

建物の外だけでなく内側にも柱を組み、100㎡以上の規模となることや、当時の一般的な建物にはあまり見られない基礎工事が行われていることなどから、公的施設の中でも特に重要な建物だったと考えられます。



※2 県内では、太田市や伊勢崎市、玉村町、前橋市、高崎市などで見つっています

※3 梁行は一般的に建物の短い方向、桁行は長い方向のこと。また、掘立柱建物とは地面に穴を掘り、礎石などを使わず、その穴に直接柱を立てて固定する建物のこと。ここでの1間は「長さ」ではなく、「柱と柱の間」のことをさします。

※4 総柱建物…掘立柱建物または礎石をもつ建物の中で、くまなく格子状に柱を立てたもの